

令和7年度第1回山形市男女共同参画センター運営委員会会議録

日 時 令和7年5月28日(水) 14時00分～15時20分

場 所 山形市男女共同参画センター5階 視聴覚室

I 出席者

【委員】佐藤慎也委員長、横尾峰子副委員長、山科典子委員、五十嵐健裕委員、川合芳光委員、佐藤知恵委員、関原あずみ委員、高瀬謙治委員、中嶋愛委員、長尾景子委員

【事務局】伊藤企画調整部長、高橋男女共同参画センター所長、遠藤副所長、板垣係長、大石主幹、後藤主査、佐藤運営事務員

II 傍聴者 0名

III 会議

- 1 開会 遠藤副所長
- 2 委嘱状交付 1名(令和7年4月1日～)
- 3 企画調整部長あいさつ 伊藤部長
- 4 委員長あいさつ 佐藤委員長
- 5 議事
 - (1) 報告
 - 令和6年度事業報告について 事務局
 - (2) 協議
 - 令和7年度事業計画について 事務局
- 6 その他
- 7 閉会 遠藤副所長

【審議経過】

5 議事

(1) 報告

令和6年度事業報告について、事務局から資料に基づき説明があった。

(委員) DVについて、長年かけて講座を含め、掲示物を提示していただいたり、さまざま広報物出していただいたりして、世間でもDVがどんなものなのか知られるようになってきたが、一般相談におけるDVの相談件数25件は、周知等による成果が見えて、例えば件数が減ってきているかなどがあるのか教えていただきたい。

(事務局) 男女共同参画センターにおける一般相談の他にも児童福祉、高齢福祉、生活保護等の担当課でも相談をお受けしている。市全体の数字で見ると、大きな増減はなく、毎年度同じような相談件数で推移している状況である。

相談件数については、一概に増えれば良いとか減れば良いというものではないと考えており、件数が増えるということは、DV案件が増えてきたという一面もあるほか、相談機関やその機会が認知されてきたといった一面も考えられ、一方で件数が減るということは、DV案件が減ってきたということも考えられるが、まだまだ周知がうまくいっていないという点もあるので、相談件数について見守っているが、実際、高止まりしてるという状況である。

(委員) ビックウイングで開催されたトークイベントについて、山形の企業で先進的な企業をピックアップしていただき、良いイベントだった。

アクションや活動発表会について、個人的には本当に感動したが、マスコミに取り上げられない悲しさもあった。素晴らしい企画をし、発信して努力している女性たちがたくさんいるにも関わらず、ニュースで流れなかったが、PR不足が原因だったのか伺いたい。

(事務局) 令和4・5年度は、テレビにも取り上げていただき、職員も出演するなどしPRする機会もあったが、6年度は事務局での宣伝不足もあり、残念ながらテレビの取材がなかった。今後は多くの報道機関に取り上げていただけるよう、新しい取り組みをしているということをお

Rしながら、事業の周知に努めていく。

(委員) 法律相談について、30代、40代、60代の相談者が5年度よりも増えたという報告があったが、増えた年代の方はどのような内容で相談されることが多かったのか。

また、例えば相談内容が多かった内容を講座で取り入れると、その年代をターゲットとすることができ、興味・関心も増えるのではないかと思うがいかがか。

(事務局) 相談内容については、多岐にわたっているが、特に30代の方は離婚に関する相談が多いようだ。

自主企画講座に関しては、どこにニーズがあるのかというところで、他の事業を見ながら吸い取っていくべきものと改めて認識したところである。

例えば、離婚については知識もないので、まずは無料法律相談に行ってみようという方が多いと思われる。やはり自分の人生の中で起こったことに対して、知識があるとないのとでは全く違うと思われるので、知識を得ていただく場として、自主企画講座にもうまく取り入れていきたい。

(委員) 事業所との連携や学校への出前講座について、令和5年度よりも非常に多くなり、評価したいと思う。

最上地区管内の市町村においては、男女共同参画単体の担当課がなく、掛け持ちであったり、予算もあまりないなどの課題があり、まず何をしたらいいかわからない。どういう事業をしたら響くのかヒントが欲しいという相談を受けたことがある。

おそらく山形市以外の連携中枢都市圏域の市町も同じような課題を持っていると思われるが、さまざまな情報を圏域内市町にも共有することにより、山形市の取組みなどからヒントを得たり、ちょっと教えに来てもらえないかなど、市町村ごとの情報共有ややりとりが活発になって、エリア全体が底上げになるのではと感じた。

(委員) 非常に広域的な視点から、他市町を先導するような役割が山形市にあるのではという意見でした。

(事務局) すべてのイベントについて圏域内7市7町の皆さんにお知らせしているが、まだまだ一方通行のようなどころがあるので、より効果的な周知の方法なども含め、圏域内の6市7町の担当者との対話をしながら考えていきたい。

(2) 協議

令和7年度事業計画について、事務局から資料に基づき説明があった。

(委員) ガールアップのプロジェクトの中で地元企業訪問ツアーについて、想定している企業について教えていただきたい。

(事務局) 3社程度に訪問したいと考えており、冠婚葬祭業、事務用機器卸売業の2社のほか、もう1社を想定している。

訪問先では、女性社員と交流する場を設け、山形で働く女性の本音を聞く機会にしたいと考えている。

(委員) 小中学生向けの出前講座の対象について、市立の小中学校だけなのか。

(事務局) 対象は市立の小中学校である。ただ、本事業を活用した学校だけが命の学習をしているわけではなく、学校独自で実施しているところもあると伺っている。

6 その他

(委員) 各学校のPTA組織のうち、母親委員会の名称について議論になっているが、山形市がそのような働きかけを行っているかなど情報があれば教えていただきたい。

(事務局) PTA活動はあくまでもPTA会員の活動と承知しているので、行政の立場としてお願いはしていないのではと思われる。

(委員) 先日、市PTA連合会総会において、母親委員長より母親委員会について話題の提供があった。各学校ではどのような組織でどのような活動をしているのかなどアンケートを実施するような動きがあった。

学校によって、母親という名前に縛られないで、父親の参加など変えていきたいという考えもある一方で、母親委員長が会議の中で、PTA会長さんのほとんどが男性であるという現実を

見たときにやはり母親委員として活動を続けていくことの大切さについてもお話ししており、
過渡期にあると感じた。

(委員) 今年度のPTAの資料を見たところ、母親委員会の名称が変更となっている学校もあった。父
親の参画をねらったものなのか考えがあってのことだと思われる。